

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第46号 2018年11月

目次

- 「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) 1
- 「日本女性会議2018inかなざわ」に参加して(寄稿) 2
- 広島市議会「女性議員との懇談会」(報告) 3
- 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告) 3
- 広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ 4

「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告)



被爆73年目の夏、例年のない猛暑が続きました。7月初めから降り始めた雨は、これまで経験したことのないほどの大規模な土砂災害、浸水被害をもたらしました。7月31日、当会が広島市と一緒に実施する、原爆犠牲者の冥福を祈り、核廃絶と世界の恒久平和を願う「平和の灯のつどい」は、今年で第20回目を迎えました。

第一部の「被爆者の証言を聞く会」は、JMS アステールプラザで開催されました。体験を語って下さったのは、学徒動員中に被爆された梶本淑子さん(87歳)です。当時14歳の少女がみた広島の街や被爆した人々の様子は、まさにこの世の地獄。できることなら忘れてしまいたい記憶だったはずです。戦時中の世相、原爆投下当時の体験、戦後の生活など、年齢を感じさせない凜とした語り口から、梶本さんの平和への強い気迫を感じました。

カザフスタンからの留学生アイーダ・マクハノワさん(15歳)が、「平和の灯」から採火し、参加者全員のロウソクに分火。慰霊碑に眠る原爆死没者と、7月豪雨の死没者に黙祷を捧げた後、「原爆許すまじ」を合唱。カザフスタン被爆者のための反核・鎮魂歌「ザマナイ」の流れる中、原爆死没者慰霊碑を中心に、ロウソクを持ち東西二手にわかれて行進しました。二つのラインが交差する

頃には、辺りは暗くなり、最後に「青い空は」を合唱して閉会しました。

参加者は、市民・学生・国内外の観光客ら約130人でした。

(報告 学習部会 福田 英子)



梶本淑子さんの話



昭和20年8月6日、爆心地から2.3kmの西区三篠町の工場で学徒動員中に被爆。一瞬の閃光を見て、すぐに目と耳と鼻を抑えて、機械の下にもぐった。気が付いた時、建物の下敷きで、動くのは首と手だけだった。暗い中、自分の下に倒れている友人に気付き一緒に逃げようと、柱に挟まれていた足を抜き、やっと動けるようになった。足は骨が見えるほどえぐられていたので、誰かの鉢巻きをもらって止血。町は焼け落ち、原爆資料館で見る絵のような人々にたくさん出会った。

手を前にぶら下げて歩いてくる人たち。腕の皮がヅル剥けてポロをぶら下げているように見える手。顔が風船みたいに腫れ、唇がめくれ、目がつぶれている人。みな裸で素足だった。その中で、自分のちぎれた腕を持って歩いていた中学生が目の前で倒れ、息絶えたことは今でも忘れられない。助かった私たちは、担架で友人を運んだ。

3日目、実家のある己斐へ帰る途中、自分を探していた父と再会。1年半後に父は血を吐いて急死。私を捜すために3日間も残留放射線にさらされたせいでしょう。自分も自宅に帰った後、歯茎から出血、発熱し、足がパンパンに腫れて食欲もなく、8月いっぱい動けなかった。腕の怪我にウジがわき、割りばしでとってもらうのはとても痛かった。県外から来てくださったお医者さんに、膿んだ体の中からガラスの破片を7個取り出してもらった。足の怪我は何とか自然治癒し、一命をとりとめた。

その後、家族を養うために必死で働き、結婚。子どもや孫にも恵まれた。2000年、当時中学3年生の孫娘から背中を押されたのをきっかけに被爆証言を始めた。初めて証言した時、真剣に聞いてくれた小学生たちの姿で、話し続ける決心をした。今はこの活動を生ある限り続けたいと思っている。話を聞いて下さった人は、原爆を知らない人々に、自分なりの方法で伝えて下さい。また、「命」を大切にしたいと心から願っている。



「日本女性会議 2018 in かなざわ」に参加して (寄稿)

「第35回日本女性会議」は「金沢素囃子」で幕が開き、まさに金沢らしい歴史と伝統文化に溢れたものでした。記念講演は「能の道を歩む」として、日本で女性として初めて能楽師となった松田若子さんから、女性であるが故に舞台上での上での様々な歯がゆい思いを話されました。

各分科会では「たたえようこれまでの道、彩ろう未知なる明日」のテーマのとおり、大きな特徴として、SDGs(持続開発目標)とリンクし、国際社会との連動した取り組みがあげられ、急速な少子高齢社会、拡大するグローバル化にどのように向かっていくのか、活発な意見が交わされました。「医療における性差」の会場からは「医学部不正入試の男女格差」について怒りの声も聞かれました。

分科会「DV・ハラスメント」から 闘って得たもの=笑顔

上野千鶴子さんは、『性暴力』は人の尊厳、人間の根底、家に例えると家の土台を壊してしまう行為であり、当然、修復するのは時間がかかる。家族にも影響があるだけでなく、周辺地域にも影響が出る。『性暴



力』が一番安い武器だ。性被害を訴える人に対する抑圧が大きいものの、今、年長の私たちの態度が、180度変わってきたと感じる。」と話されました。

自らの性暴力被害を告発する伊藤詩織さん、NPO 法人マタハラ Net を立ち上げた小酒部さやかさん、セクハラ裁判の支援などをしてくられた牟田和恵さんの3人は、其々の体験を踏まえ、社会の不十分さを指摘するとともに、参加者に対して「傍観者にならない事が大切だ」呼びかけられました。また、被害を受けた女性に対する批判は、二次被害行為に当たるが、性暴力に対しても、産休・育休等に関しても、女性からの批判がある。まさに「女性の敵は女性」という現実を突きつけられました。

最後に、上野先生からパネリストに「闘って得たものは何ですか？」と問いかけられた時、「笑顔です！」とニコリされた伊藤詩織さん。実名で性被害を告発した後のバッシングや脅迫のため、今はロンドンに移住しておられます。これからも応援していきたいと思います。 (寄稿 呉市ウイ・カメラ参加者)

広島市議会「女性議員との懇談会」(報告)

～西日本豪雨災害を受けて、防災を考える～

10月24日に、広島市議会女性議員とひろしまWENET会員で懇談会を開きました。

女性議員は桑田恭子さん、近松里子さん、藤井敏子さん、馬庭恭子さんの4人、ひろしまWENETの会員は、16人が参加しました。

各議員から自己紹介・この度の豪雨災害時の活動について・防災に関する意見等がありました。

「ヒロシマは全国で最も危険箇所が多く、地域の人々の自覚が重要となるが、ハザードマップのない地域もあった」「避難所となった体育館の暑さは猛烈で、大型エアコンが入ったのは良かった」「食事が三日間乾パンだけの所もあった」「被害者は傷ついているのに、傷つけるような言葉があった」「被災を経験している地域は、自覚が違っていると感じられた。また、市の職員も対応が良くなっている」「地域の支え合い、繋がりが重要である」「乾燥機付き洗濯機が入ったのは良かった」「経験のある人、知識のある人の配置が大切」「社会的弱者の被害は2倍であり、そのことも含めた避難訓練が必要である」「自分の防災についての意識を確認し、シュミレーションをすることも大切」など、災害直後に現地に行って感じたこと、問題点などが挙げられました。

特に「助けて欲しい、困っていること」等の情報を上手く聞き出すことが必要との意見が印象的でした。時がたつと忘れがちですが、意識を持ち経験を次に活かすことが重要であることを学びました。 (報告 学習部会 宮田 保江)



「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告)

2か所で街頭活動



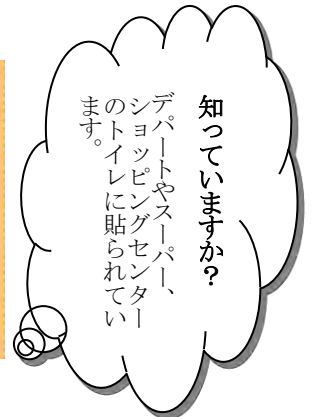
1999年12月、国連総会は11月25日を「女性に対する暴力撤廃国際日」として指定しました。

11月25日という日付は、1960年、ドミニカの支配者ラファエル・トルヒジョの命令により、ドミニカ共和国の政治活動家であったミラバル三姉妹が惨殺されたことにちなんで制定されました。

日本でも毎年、11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」の期間として、内閣府をはじめとする関係省庁や地方公共団体等で様々な運動を展開しています。

広島市では広島市男女共同参画課と国際ソロプチミスト広島ー中央が、街頭活動とパープル・ライトアップに取り組まれており、ひろしまWENETも一緒に街頭活動に参加しました。

11月12日(月)はJR広島駅南口広場、参加者23人、11月25日(日)は八丁堀交差点周辺、参加者20人で、それぞれ14時から約1時間、DV防止チラシ等の配布行動を行いました。チラシを手にとってうなずく人もいて、DVという言葉が少しずつ浸透してきているのかなと感じました。特に今年は、俳優の東幹久さんのセクハラ防止のポスターが目を引き、市民に対するアピール効果が大きかったと思います。(広報部会)



広島市女性団体連絡会議 (ひろしまWENET) からのお知らせ

2018年度広島市女性団体連絡会議役員紹介

役職名	名前	団体名
会長	山本 紀子	アルコ・デ・ヒロシマ
副会長	宮田 保江	安芸コスモスゾントクラブ
副会長	平木 久恵	アルコ・デ・ヒロシマ
書記	福田 英子	一般財団法人 広島市母子寡婦福祉連合会
書記	貴田 月美	1女性会議広島支部
会計	横光 美里	2000+17・平和
会計	藤永 雅子	広島市未来を考える女性の会
学習部会長	西村 宏子	2000+17・平和
啓発部会長	中嶋 典子	Human & Network 宙(そら)
広報部会長	澤野 道子	安芸コスモスゾントクラブ
監事	中平 吉子	広島市地域女性団体連絡協議会
監事	上野 早苗	国際ソロプチミスト広島

男女共同参画セミナー

テーマ：ジェンダーとは

講師：北仲千里 広島大学准教授 (広島大学ハラスメント相談室)

日時：2019年2月16日(土) 13時30分～16時

場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ (広島市まちづくり市民交流プラザ) 北棟6階「マルチメディアスタジオ」

2019国際女性デーひろしま

日時：2019年3月10日(日)

(会場やテーマについては、調整中)

WENET ニュース第46号 2018年11月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議 (広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 山本 紀子